

株式会社オージーフーズ

DX戦略書2023



2023年8月21日 制定

2024年3月25日 改訂

株式会社オージーフーズ

代表取締役社長 高橋 徹

1. DXに関するトップメッセージ

日本一“お客様満足度”の高い食品通販会社を目指して。

オーjeeフーズは創業30周年を迎え、今では全国500社以上の食品メーカー様、生産者様との仕入れネットワークを築き上げ、お客様に日々ご提案させていただいております。

これもひとえにお客様、従業員、仕入先、協力先皆様のおかげと心から感謝しております。

私達、オーjeeフーズは「**全国、世界の美味しい食品を継続してお客様にお届けする**」という理念のもと、

日本一質の高い食品通販サービスを提供できる、**日本一お客様満足度の高い食品通販会社を目指し**お客様のお役立ちをして参ります。

食品業界を取り巻く環境は、原材料、物流費、資材の高騰に加え、農産物の生産者の高齢化や自然災害の激甚化による品物不足など厳しさを増しております。また、デジタル化の進展に伴う技術革新、地球環境保全の観点からSDGs、フードロスや脱炭素への対応も必要となってきております。このような時代の変化に対応しつつ、お客様の満足度を高めるためには、取り扱う商品やサービスの付加価値を上げながらも、それを実現する作業の時間は短縮し、人が成長し続ける、強い会社でなければなりません。私達はDX、経営計画書、環境整備活動を通じて全員で切磋琢磨してまいります。

そしてオーjeeフーズがお客様ににとって「日本一の食品通販のプロ」と言われるよう、従業員全員が一丸となって高い目標にチャレンジして参ります。応援よろしく申し上げます。

2. 経営理念・経営ビジョン・ビジネスモデル

<経営理念>

- ・お客様に喜ばれる仕事を通じて社会に貢献し、あわせて従業員の成長と物心両面の幸福を追求します。
- ・全国、世界のおいしい食品を継続してお客様にお届けします。
- ・作り手との共存共栄を図ります。

<経営ビジョン>

IT・デジタル化を活用して組織に変革をもたらすDXを推進することにより、勘と経験で意思決定する経営からデータに基づく意思決定に変え、誰でも参加できる経営を実現します。自社のもつ物流サービス及びフードコーディネート機能を極め、日本一質の高い食品通販サービスを提供できる、日本一お客様満足度の高い食品通販会社を目指します。

<目指すべきビジネスモデル>

これまでの食品卸業に軸足を置きながら「食と人をつなげる食品サプライヤー」として培ってきたネットワークやノウハウを駆使し、新規顧客の拡大策として一般消費者向けのネット販売事業を強化します。また、他にはないオーグーフーズオリジナル商品を強化することによりお客様の満足度を高めてまいります。

3. DX戦略

当社は、経営ビジョン及びビジネスモデルを実現するために、以下のDX戦略を立案し実践します。

DX戦略推進のために毎年、売り上げの0.5%投資します。

■戦略①物流のデジタル化

- ・ 現在、紙やFAX等で行っている出荷、検品業務（指示書）を、キントーンを利用してデジタル化し、卸・通販、物流の情報の一元化を図る。
- ・ ルッカースタジオを利用し集計作業の自動化を行い事務効率の向上や物流業務の最適化を図る。

■戦略②取扱い商品・事業者のデータベース化

- ・ 取扱い商品・食品をキントーンで一元化しデータベースを構築する。
- ・ データを2次加工し取り扱い商品リストを作成し、お取引先に情報提供する。

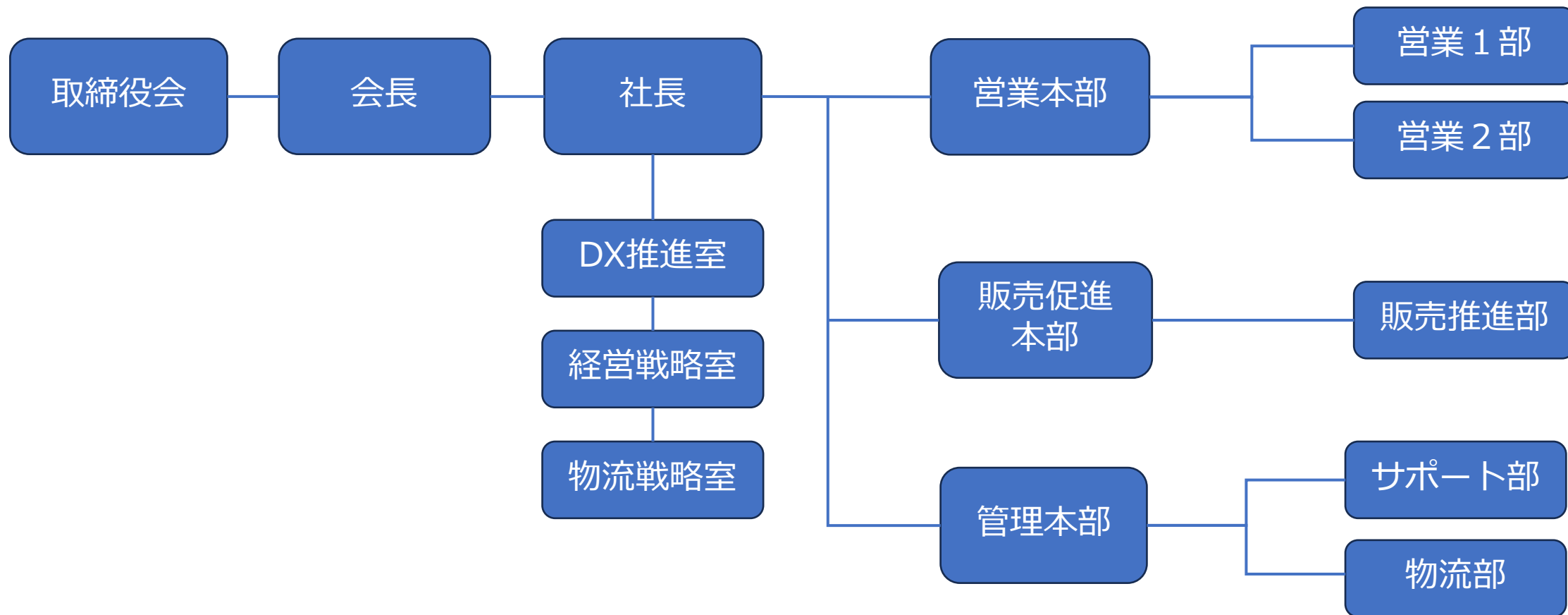
■戦略③データ活用と提案・改善策

- ・ BIツールを活用し、売れ筋の把握、売れ筋予測、販売予測及びシュミレーションを行い顧客提案を行う。
- ・ 売上計画が未達になりそうな案件については早めに改善策を発見し、対策を行う。
- ・ デジタル人材（デジタル技術による生産性向上、業務効率化が推進できる人材）の育成。

4. DX戦略推進体制・デジタル人材育成

当社のDXは、社長の直下にDX推進室を置き全社的なDX計画を立案し、各部門のDXを推進します。
また、委員会活動としてデータドリブンチームを組織し、2ヶ月に1回のDX勉強会を実施し、ツールや使い方の普及を行います。

また、デジタル人材の確保及び育成は、DX推進室が中心となってデータドリブンチームと協力し推進します。



5. デジタル技術・環境整備

当社が利用するデジタル技術及び環境整備は以下の通りです。また、既存システムについてはDX推進室が中心となり、定期的に効果を測定し、改善を図りながら運用してまいります。

デジタル技術	取組内容	期限	担当部門
■既存システム			
ファイルメーカー	キントーンに移行する	2024年8月までに	DX推進室
受発注システム	ルッカースタジオを含めた他システムとの連携	2024年8月までに	DX推進室 サポート部
デスクネッツ	Googleカレンダー移行	2024年3月まで	DX推進室
RPA（ロボパット）	物流及びサポート業務の自動化	2024年5月までに自動化を推進し、利用の継続を判断	サポート部 物流部
■新規導入システム			
キントーン	キントーンの導入及び有効利用	2024年8月までに	DX推進室

6. 数値目標 (KPI)

当社は、DX戦略を推進するために以下の目標値を設定し、会社全体で取り組んでまいります。

区分 (ビジネスモデル)	取組内容	期限	目標値
戦略①物流のデジタル化	現場の記録のデジタル化	2025年5月	ペーパーレス化 80%
戦略②取扱い商品・事業者のデータベース化	ファイルメーカーのデータをクラウドに移行し、二次加工して顧客に提供	2025年5月	2次加工データを顧客に提供する仕組みを完了する。
戦略③データ活用と提案・改善策	デジタル人材 (デジタル技術により生産性向上、業務効率化ができる人材) の育成	2024年8月	デジタル人材の育成 7名
	BIツールを用いたデータ活用による顧客や社内への提案・改善策	2025年5月	顧客や社内への提案・改善数10件

7. 社長メッセージ

みなさんこんにちは高橋です。

今回は我々のDX戦略についてです。巷でDXとよく聞きますが、弊社ではDXをIT・デジタル技術を活用して組織に変革を起こすと捉え、DX化に数年前から取り組んでいます。

わたしたちは、全国、世界の美味しい食品を継続してお客様にお届けする事で、お客様の人生に笑顔と幸せなひとときをお届けすることを理念として創業し、お陰様で今期で35期を迎えることができました。

創業以来、食品通販卸を生業として近年では物流、フードコーディネーター、品質管理などの周辺サービスをご提供することで日本一の食品通販お役立ち企業を目指しております。

今、食を取り巻く環境は資源高、気候変動等で大変厳しいものですが、我々はDX化を通じて生産効率を高め、お客様にスピーディーに、ワクワク心踊る食を提案し続けてお役立ちしてまいります。同時にわれわれ自身の、働きがい、従業員満足度向上を推進してまいりたいと思います。

今回、その為のDX戦略をまとめホームページにも記載しております。

企業は毎日意思決定の連続です。その意思決定が勘と経験によるものから、データに基づくものにする事で、スピーディーでかつ正確な決定、そして誰でも参加できる経営につながります。そこで弊社でも経済産業省が認定するDX認定の取得を今期目指します。

もちろんオーjeeフーズが創業以来大事にしてきた、現場に足を運び、お客様、仕入先様とのコミュニケーションも大切にしながらDX戦略を推進してまいります。オーjeeフーズのDX戦略に是非ご注目ください。いつもありがとうございます。

株式会社オーjeeフーズ
代表取締役社長 高橋 徹